**《 放射線治療科研修プログラム 》**

**【 分野：放射線腫瘍学 】**

一般目標 GIO

がん治療の3本柱の一つである放射線治療を適切に行うために必要な基本的知識、技能や態度を修得する。

**【 テーマ 】**

**(1) 根治的放射線治療**

一般目標 GIO

適切な根治的放射線治療を行うために、治療手法、効果および副作用を理解し、患者の状態に配慮した診察、説明、治療計画、効果判定や副作用対応を行う能力を身につける。

行動目標 SBOs

1. がん種に応じた病期診断が実践できる。（技能）
2. がん種の病期に応じた治療適応が説明できる。（解釈）
3. 悪性脳腫瘍、頭頚部癌、肺癌、食道癌、乳癌、前立腺癌、子宮頚癌、直腸癌および悪性リンパ腫の治療効果や副作用についてわかり易く説明できる。（解釈）
4. 外部照射法の実際を患者にわかり易い説明を実践できる。（技能）
5. 皮膚マーキング、固定具作成および臓器移動対策を説明できる。（解釈）
6. 化学療法、免疫療法や温熱療法などの併用治療についてわかり易く説明できる。（解釈）
7. 強度変調放射線治療のメリットを説明できる。（解釈）
8. 定位放射線治療の適応疾患を説明できる。（解釈）
9. 小線源治療の適応疾患を説明できる。（解釈）
10. 指導医のもとに乳癌の定型的な術後照射の3次元治療計画を実践できる。（技能）
11. 指導医のもとに前立腺癌の定型的な強度変調放射線治療の治療計画を実践できる。（技能）
12. 各臓器の急性障害に対する対症療法を実践できる。（技能）
13. がん種に応じた治療効果判定を実践できる。（技能）
14. 各臓器の晩期障害に対する治療法を説明できる。（解釈）
15. 患者の生活の質を尊重し、患者・家族の心情に配慮できる。（態度）

**(2) 緩和的放射線治療**

一般目標 GIO

適切な緩和的放射線治療を行うために必要な診察、説明、治療計画や効果判定を行う能力を身につける。

行動目標 SBOs

1. 疼痛の程度や部位、責任病変の判定を実践できる。（技能）
2. 脳転移や骨転移に必要な診断手法を説明できる。（解釈）
3. 疼痛、神経症状や腫瘍出血に対する治療効果についてわかり易く説明できる。（態度）
4. 脳転移に対する全脳照射や定位照射の適応について説明できる。（解釈）
5. 指導医のもとに骨転移や脳転移に対する3次元治療計画を実践できる。（技能）
6. 指導医のもとに全身状態の低下した患者に対応した照射計画を立案できる。（態度）
7. 指導医のもとに疼痛緩和薬の投与を実践できる。（技能）
8. 疼痛や神経症状などの症状緩和の効果判定を実践できる。（技能）
9. 終末期患者に必要な疼痛管理、栄養管理や家族を含めた精神的支援について配慮することができる。（態度）

**放射線治療科　週間プログラム**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 曜日 | 午前 | 午後 |
| 月曜日 | 8:30~ 外来カンファレンス  9:30~ 治療計画、病棟研修  11:00~ 症例カンファレンス・病棟回診 | 16:45~ 呼吸器腫瘍カンファレンス |
| 火曜日 | 8:30~ 外来カンファレンス  9:30~ 外来・病棟研修、治療計画 |  |
| 水曜日 | 8:30~ 外来カンファレンス  9:30~ 外来・病棟研修、治療計画 |  |
| 木曜日 | 8:00~ 婦人科・放射線合同カンファレンス  8:30~ 外来カンファレンス  9:30~ 外来・病棟研修、治療計画 | 17:00~ 頭頚部キャンサーボード |
| 金曜日 | 8:30~ 外来カンファレンス  9:30~ 外来・病棟研修、治療計画 |  |

**放射線治療科研修の到達度評価**

研修医の到達度に関する評価は、放射線治療科研修を担当した放射線治療科専門医および診療科長により行われる。研修医による自己評価を行い、担当指導医および診療科長より臨床経験、知識、態度など各項目についての評価を受ける。評価の項目は別途用意する。